

福島県後期高齢者医療広域連合の財務諸表（令和２年度決算分）の概要

I 一般会計等（一般会計及び特別会計）

1 貸借対照表

借 方		貸 方	
【資 産】	200 億 4,300 万 7,359 円	【負債】	1 億 7,578 万 3,535 円
固定資産	1 億 7,765 万 6,351 円	固定負債	1 億 7,461 万 5,448 円
有形固定資産	0 円	流動負債	116 万 8,087 円
無形固定資産	1 億 6,302 万 9,658 円		
投資等	1,462 万 6,693 円	【純資産】	198 億 6,722 万 3,824 円
	(すべて長期延滞債権)	固定資産等形成分	1 億 7,765 万 6,351 円
流動資産	198 億 6,535 万 1,008 円	余剰分（不足分）	196 億 8,956 万 7,473 円
【資産合計】	200 億 4,300 万 7,359 円	【負債・純資産合計】	200 億 4,300 万 7,359 円

福島県後期高齢者医療広域連合の資産総額は 200 億 4,300 万 7,359 円で、負債は 1 億 7,578 万 3,535 円、純資産は、198 億 6,722 万 3,824 円となっている。

資産については、そのほとんどが現金預金である。現金預金の内訳は、各会計の歳入歳出差引額の合計額である 198 億 6,384 万 2,689 円、歳計外現金が 116 万 8,087 円となっている。また、固定資産については、有形固定資産はなく、すべてソフトウェアの無形固定資産である。

なお、流動資産の現金預金については、出納整理期間終了時の現金預金残高を示すものであり、翌年度に国県等への補助金返還分や社会保険診療報酬支払基金への返還分など、返還金として支出する分の金額も含まれているため、純資産のうち、余剰分（不足分）の全てが本来の余剰金の要素を持つものではない。

2 行政コスト計算書

経常費用は総額 2,330 億 5,182 万 822 円であり、経常収益は総額 2 億 9,617 万 5,389 円となっている。

これらの差引からなる純経常行政コストは 2,327 億 5,564 万 5,433 円となっている。

また、臨時損失及び臨時利益がなかったため、純行政コストも 2,327 億 5,564 万 5,433 円となっている。

内訳として、性質別に見ると人にかかるコスト（人件費）が 1,855 万 812 円、物にかかるコスト（物件費）が 19 億 1,401 万 1,137 円、移転支的コストが 2,265 億 3,113 万 6,098 円となっている。

3 純資産変動計算書

令和2年度内における純資産の変動は、79億9,365万1,839円となっている。

その内訳は、純行政コストによる減が2,327億5,564万5,433円、市町村負担金(事務費、療養給付費及び保険料)等の財源による増が406億1,473万7,082円、国県等の補助金受入による増が2,001億3,456万190円となっている。

4 資金収支計算書

令和2年度末の歳計現金残高は198億6,267万4,602円、歳計外現金残高が116万8,087円となっている。

内訳として、経常収支の部(経常的な行政活動による資金収支)は、80億1,181万8,001円の黒字、投資的収支の部と財務活動収支の部は無しとなっている。

黒字となった主な要因としては、新型コロナウイルス感染症による受診控え等により、療養給付費等が大きく落ち込み、また補助金等の次年度償還金が多く含まれているためである。

